

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年	12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年	4月1日	布施高等女学校開校
22年	4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年	4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年	2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年	3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年	4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年	4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年	1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年	1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年	1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年	4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年	4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年	2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年	4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年	4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年	3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年	7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年	3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年	3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年	5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年	4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年	12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年	1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年	4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年	4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更

			東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更
			家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日		家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日		東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日		健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更
			健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日		健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日		東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日		東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設
令和3年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科を国際教養こども学科に名称変更

2) 設置する学校・学部・学科 (令和4年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
国際教養こども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
介護福祉学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数 (令和4年5月1日現在)

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	331
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	94
	実践保育学科	69
	介護福祉学科	125
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	658
東大阪大学柏原高等学校	普通科	507
東大阪大学附属幼稚園		292
合計		2,076

4) 役員概要 (令和5年4月1日現在)

(1) 役員 理事 7人、監事 2人 (任期: 令和7年7月3日【7-1-1 除く】)

寄附行為	役職名	氏名
7-1-2	理事長	村上 靖平
7-1-2	理事	栗岡二三子
7-1-3	理事	佐伯 勇
7-1-3	理事	筒井 宣興
7-1-1	理事	吉岡真知子
7-1-2	理事	金治 延幸
7-1-3	理事	別所諭貴夫
8	監事	中道 均
8	監事	室井 博子

(2) 評議員 15人 (任期: 令和7年7月3日)

寄附行為	氏名	寄附行為	氏名
21-1-2	栗岡二三子	21-1-1	山田ゆかり
21-1-1	村上 靖平	21-1-1	森内 徹
21-1-3	妻野 京子	21-1-1	出口 和隆
21-1-3	吉岡真知子	21-1-1	新 浩幸
21-1-3	別所諭貴夫	21-1-1	小林 康行
21-1-3	西田 眞男	21-1-1	南方 孝一
21-1-3	金治 延幸	21-1-3	宮里 円香
21-1-3	三浦 常治		

5) 教職員の概要 (令和4年5月1日現在)

	教員		職員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	12	7	19
東大阪大学	22	27	16	10	75
東大阪大学短期大学部	33	36	14	4	87
東大阪大学敬愛高等学校	46	14	7	6	73
東大阪大学柏原高等学校	49	11	11	11	82
東大阪大学附属幼稚園	17	4	6	3	30
合計	167	92	66	41	366

2 令和4年度事業計画における進捗状況等

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染状況により影響はあったものの、体育大会、柏高祭、校外学習、修学旅行等大きな行事は感染予防対策をしながらすべて実施することができた。また体育大会や柏高祭では多くの保護者に参加してもらうことができた。

しかし、1学期末にはアスリート寮で感染が広がり、学級閉鎖や学年閉鎖が相次いだ。また11月には敬愛寮で感染が広がり、3学期当初はインフルエンザが流行したが、昨年度作成した「寮で感染症等が発生した場合の対応マニュアル」によりスムーズに対応することができた。

1. 生徒募集活動の推進

ここ数年、入学生徒数が募集定員を大きく下回っている現状から、新入生の確保を最重要課題として生徒募集活動に取り組んだ。

(1)新コース「キャリアスポーツ」の立ち上げ

改革プロジェクトを立ち上げ、9月までに21回のプロジェクト会議を積み重ねた。併せて授業で指導してもらうプロや専門家と交渉を重ね、新コース「キャリアスポーツ」を立ち上げることができた。

(2)ホームページのリニューアルとSNSの活用でweb広報の強化

- ・ホームページをリニューアルして動画等多く取り入れ見やすくしたことと、古い記事を整理することができた。
- ・SNS公式アカウントの投稿・PRがうまくでき、フォロワー数が昨年3月と今年3月を比べると次のように増加した。「Instagramアカウント」210人→462人、「Twitterアカウント」200人→272人、「TikTokアカウント」（新開設）0→75人、「YouTubeアカウント」（チャンネル登録数）170人→197人
- ・YouTube広告動画を作成するなど、動画広告による広報活動に力を入れた。
- ・Webサイトのアクセスから競合校と比較すると、9月から11月の調査では、webサイト（ホームページ）の滞在時間が0.33分と他校に比べ短いことが分かった。このことからホームページの内容をさらに充実させる必要がある。

(3)中学校・塾訪問

入試広報部で大阪市内全域、東大阪市、八尾市、柏原市、堺市、南河内地域、泉州・泉南地域、北摂・北河内地域の一部、奈良県全域と奈良市内の一部、三重県名張市の一部を訪問した。今年度は特に近隣校に重点を置き訪問した。

(4)調理・美術コースの広報

昨年度の入学者数の減少を踏まえ、背水の陣で広報活動を行った。

- ・6月から11月まで、土曜授業を利用して月1回中学生の体験授業を実施した。授業体験用のチラシも作成し、近隣の中学校へ配布した。
- ・調理コースは「おはよう朝日のコロコロレストラン」に出演し、過去最高の応募者数を獲得するなど評判は良かった。追加撮影して年末にも再度放送してもらうことができた。
- ・柏原市民フェスティバルに両コースとも出店した。また調理コースは学園ウォークで豚汁やパンケーキをふるまうなど、地域との連携を深めた。

- ・調理コースは、オープンスクールで参加者に一口ケーキを配るなど広報に努めた。
- ・美術コースは、中学生対象の絵葉書コンテストを実施した。
しかし調理・美術コースでは、結果として今年度も入学者数が少なかつたため、来年度はコースとしての募集を停止し、キャリアアップコースの中で、選択授業をバージョンアップした形で、調理・美術コースの成果を継承したい。

(5)入試広報活動の工夫

- ・八尾市・柏原市・藤井寺市等、地元中学校へ特化した生徒募集の在り方を検討し、高校体験授業や出前授業、柏原高校主催の絵葉書コンテスト等を実施した。
- ・今年度は塾訪問にも重点を置き、塾生を推薦してくれる塾には訪問回数を増やして丁寧に対応した。
- ・オープンスクールでは、在校生が前面に出て、本校のよさや楽しさをアピールできた。来年度はさらに生徒が活躍できる場を増やしたい。
- ・入試広報部と在校生で訪問チームを作り、出身中学校や地元中学校を中心に、放課後やクラブ活動等で直接中学生にアピールできる場を設定しようとしたが、準備不足で今年度はできなかった。次年度には取り組みたい。

入試広報部を中心に入学者増を第一の目標として取り組んできたが、結果としては、目標を達成することができなかった。

令和5年度は、入試広報部の大改革を行い、校務分掌として入試広報に関わる教員を増員し、広報部門と生徒募集部門を分け、ホームページや柏高だよりも入試広報部に位置付け、全教職員で生徒募集を行う意識と体制を作りたい。さらに目標値を高く設定し、目標実現に向けた各コースの特色づくりや広報方法をしっかりと検討していきたい。

2. すべての生徒が夢中になって学べる授業づくり

(1)ICT教育の推進

- ・ICT教育推進部を中心に、昨年度に引き続きiPad等を活用した授業づくりに力を入れた。
- ・1・2年生全員にiPadを導入し、個別最適な学びと協働的な学びをめざした。
- ・実技を除くすべての教科で毎時間iPadを活用した授業を目指した。毎時間継続してiPadを活用するために、学習アプリ「Monoxer」を導入し、授業中に時間を決めて課題に取り組んだ。今年度1年間で、活用回数の多い生徒は3000回(60,000問)以上、全校生徒で200万問以上の課題に取り組んだことになり、「Monoxer」の活用率は全国でも3位となった。
- ・自学自習型の学習アプリ「スタディサプリ」も併せて導入し、全学年演習課題や宿題として取り寄せた。iPadを導入していない3年生は、「Google Classroom」を併用し課題等を配信した。
- ・リクルート社が主催するアントレプレナーシップ「高校生 Ring AWARD 2022」にアドバンストコースの生徒が応募し、全国大会でグランプリを獲得することができた。この成果を探究の授業に生かすと共に、広報にも大いに活用していきたい。
- ・iPadを活用した公開授業や研究授業は昨年度に比べて減少してしまったので、次年度は再度回数を増やして実施したい。

(2)主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の推進

- ・ICTと共にペア学習・グループ学習を活用し、自分の考えをまとめ、発表・表現する力の育成をめざした。公開授業や研究授業等、研修の場をさらに多く持ちたい。
- ・今年度の1年生は観点別評価に取り組んだ。さらに研修を積んで、評価材料や評価基準など教職員全員で共通認識を深めたい。

3. 生活指導の徹底と生徒会活動の充実

(1)問題行動の未然防止、迅速な対応と粘り強い指導

日常から挨拶、身だしなみ、頭髪、遅刻、欠席等の「凡事徹底」を図った。生徒指導案件（懲戒件数）は昨年度と比べ少し増加したが、その多くは国際クラスに関係した案件であった。指導件数は増えたが、国際クラスも学校全体で指導することができた。

(2)退学・転学の防止、減少

生徒理解に基づいた厳しくも温かみのある指導をめざし、退学や転学をする生徒を昨年度よりさらに減らすことができた。しかし、退学率で経年比較すると、ここ数年ほぼ横ばい状況である。日々のより丁寧な指導と、部活動との連携、またスクールカウンセラーとの連携やケース会議を充実させることで、転退学率をさらに減少させたい。

(3)生徒会活動の充実

少しずつ行事もできるようになってきて、体育祭や柏高祭など生徒会が活躍できる場面が増えてきた。またオープンスクールでも司会をするなど活躍できた。生徒会の取り組みとしてエコキャップ運動に取り組んだが、そのことが評価され、回収業者から表彰された。

次年度は、さらに生徒会活動を活性化させるため、校務分掌の生徒指導部から生徒会部を独立させ、生徒会主任を置き、生徒会独自の取り組みを増やしていく。

4. 国際クラスの充実

(1)国際交流センターや学年・生徒指導との連携強化

- ・今年度は国際交流センターが生活面を、学校は教育面を中心に担うことでスタートしたが来年度はさらに連携を密にして、協力体制を強化したい。
- ・生活面を含め留学生の指導事案はあったが、国際クラス担当だけで対応するのではなく、学年・生徒指導と連携して指導することができた。さらに連携を強化し、問題行動の未然防止や充実した留学生活が送れるように取り組みたい。

(2)有名大学進学に向けた学力・進路保障

今年度は国際クラスの担任だけでなく、進路指導主任や管理職も関わり進路指導をすることができた。次年度は進路指導部に国際クラス3年担任を入れ、さらに進路指導部と連携を強めて、早期より指導していけるようにしたい。

(3)日本人と留学生の相互交流を基盤とした多文化共生教育の推進

- ・新型コロナの影響もあり、日本人との交流が中々できなかった。しかし、体育祭や柏高祭、校外学習などの学校行事は一緒に参加できた。修学旅行は、希望者だけであるが留学生の約半数と一緒に参加できたことは大きな前進である。次年度は学校行事だけでなく、生徒会の取り組みとして交流イベントを企画・実施したい。

5. 進路指導の充実と進学実績の向上

今年度も学校紹介の就職においては、大手の企業から中小企業まで多様な就職状況で、内定率100%を維持することができた。進学においても明治大学や法政大学、東京理科大学、中央大学、近畿大学など有名私立大学への進学生も輩出できた。東大阪大学短期大学部へは11名（5名は実践食物学科）進学させることができ、目標の10名以上を達成できた。

コロナ禍で中止していた進路行事もほぼ復活させることができ、2年では進路ガイダンスや体験授業、ポスターセッション、講演会など、3年では就職勝道場、労働条件や金銭教育、租税教室、着こなし講座などの講演会を「進路研究」の時間を中心に取り組んだ。

また選択授業で「漢字検定」・「英語検定」・「数学検定」「簿記検定」などを受講し、資格を取得したことにより自己肯定感が向上し、自信をもって進路選択できたと考えられる。さらに合格率を高めていきたい。

今後は、進学する場合にも就職する場合にも、コミュニケーション力やプレゼン力が益々必要になると思われるので、これに対応できるように授業の内容を構築していきたい。

58期生の進路状況（生徒数 172名）

就 職（33）		進 学（133）				その他	
一般企業	公務員	大 学	短 大	専門学校	留学	就労支 援施設	アルバ イト、未 定
31	2	87	12	32	2	1	5

主な就職先 : ALSOK 近畿（株）・トヨタカローラ南海（株）・不易糊工場（株）
（株）三供システム・（株）三重工業・（株）山九
自衛官候補生・一般曹候補生

主な進学先 : 明治大学・法政大学・東京理科大学・中央大学・関西大学・近畿大学・
龍谷大学・大阪産業大学・追手門学院大学・阪南大学・桃山学院大学・
東大阪大学短期大学部・オレンジコースト大学（アメリカ）

3 財務の概要

別添 令和4年度 資金収支計算書
事業活動収支計算書
貸借対照表
財産目録
監査報告書 参照